

# インターネット合格講座 ミクロ経済学

こんにちは これからミクロ経済学の講習を始めます。  
以下の予定で進めていきます。よろしくお願いします。  
※赤字は今回の範囲です。

[10月～12月]

## 第1回 需要曲線と供給曲線

- ・財の性質
- ・代替財
- ・補完財
- ・独立財

## 第2回 市場均衡の安定性

- ・ワルラスの安定条件
- ・マーシャルの安定条件
- ・クモの巢理論

## 第3回 弾力性

- ・需要の価格弾力性
- ・需要の所得弾力性
- ・需要の交差弾力性
- ・供給の価格弾力性

## 第4回 消費者行動

- ・無差別曲線
- ・予算線
- ・消費者均衡
- ・所得消費曲線
- ・価格消費曲線
- ・代替効果、所得効果

## 第5回 生産者行動

- ・生産関数
- ・等量曲線
- ・等費用線

## 第6回 費用曲線

- ・費用曲線
- ・平均と限界
- ・総収入曲線

## 第7回 不完全競争

- ・独占
- ・寡占

## 第8回 市場の失敗

- ・外部効果
- ・公共財
- ・費用逡減産業

## 第9回 厚生経済学

- ・パレート最適
- ・厚生経済学の第一定理、第二定理

## 第10回 国際貿易

- ・比較優位
- ・関税と数量割当政策

## 第11回 不確実性の理論

## 第12回 演習問題

# ミクロ経済学

## 経済学の勉強の仕方

### 1. 全体構造の中でどこの部分を学習しているかを把握する。

経済学は社会全体のしくみや政策のあり方を解明していきます。現実の経済はいろいろな要素が絡み合っていて動いているのですが、ある程度考察対象を限定することで個々の経済主体の行動が社会に及ぼす影響を解明できます。そのために個々の経済主体の行動を個別に検討していく方法をとっています。したがって、経済の全体構造の中でどこの部分を学習しているのかをつねに考えていきまないと断片的な知識で終わってしまう恐れがあります。学習の最初には必ず、全体における位置を確認してください。

### 2. 図の理解から始め、理論、計算と関連させて覚える。

経済学の学習では、難しい理論をはやく理解してもらうために、図がたくさん利用されます。図を使えば計算問題の意味も分かりやすくなります。まず、図の理解から始めて、理論・計算問題を行えば、理解が一層深まります。

### 3. 過去の出題例を同時に行う。

経済学は大学の試験、公認会計士試験、中小企業診断士、証券アナリスト試験等、いろいろな試験で出題されています。その内容は論文であったり、択一試験であったりと形式は違いますし、レベルも異なります。公務員試験を受験するのであれば、公務員試験の出題形式、レベルにあった勉強をすることが効率的です。そのために、過去に出題された問題を同時に行っていくことが必要です。過去の問題が解ければ8割以上は得点できるはずです。

### 4. 定義、性質はしっかり覚える。

経済用語はなじみがなく覚えにくいものでしょう。しかし、経済用語が理解できれば、それだけで得点できる問題も少なくありません。理論で出題された場合、ほとんどが定義、性質から出題されていますのでしっかり覚えてください。

# 経済学の考え方

## 1. ミクロ経済学とマクロ経済学

経済学は、財や資源が希少であるときに、それを効率的・公平に配分するにはどうすればよいかというように、財や資源の配分の仕方を研究する学問です。

経済学には、大別すると、ミクロ経済学とマクロ経済学という2つのアプローチがあります。それぞれは共通の分析対象をもちますが、経済問題の本質を浮き彫りにする手段として、2種類の切り口から分析する方法がとられているのです。

### (ミクロ経済学)

消費者、企業といった個々の経済主体の行動を分析し、この行動を積み重ねて需要と供給という集計量を導き、市場の均衡を考察する学問です。ミクロ経済学は農産物や電気製品など、あらゆる財の市場価格がどのように決まり、その結果、労働・土地といった生産資源が各産業間でどのように配分されるか、という資源配分の効率性と市場で決まる雇用構造や消費構造が国民の間に不必要な格差を生み出さないかといった問題を取り扱います。主として分析の中心を価格に置きますので、「価格理論」とも呼ばれています。

### (マクロ経済学)

個々の経済主体の合理的行動を前提としつつも、行動の違いにはとらわれず、分析の出発点を消費、投資といった経済全体の集計量に定め、最初から経済全体の動きを分析する方法をとっています。国民所得や総消費、総投資といった集計的経済変数を扱い、それが国民所得の決定に及ぼす影響を問題とするので「国民所得理論」とも呼ばれています。

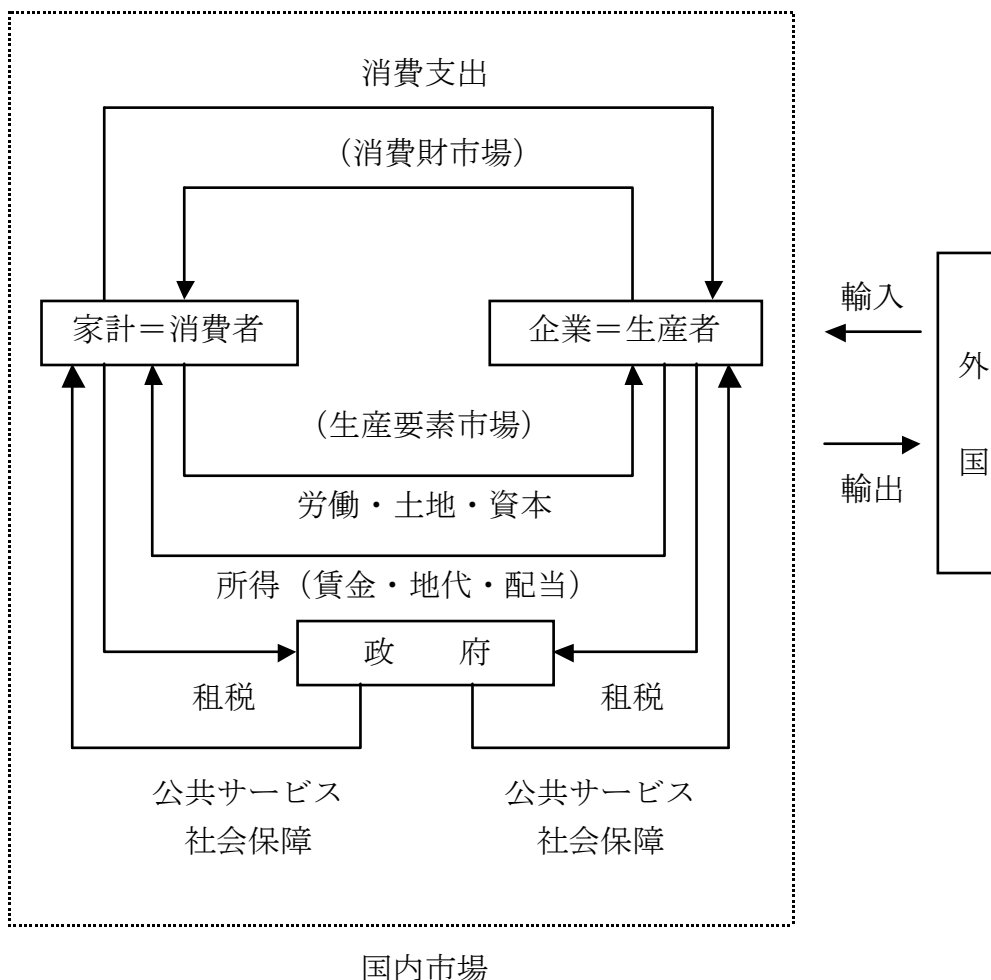
## 2. 経済学の対象

経済学が扱う経済領域は必要なものは自分で賄うという「自給経済領域」ではなく、自分で必要なものを他人に依存して得るという「交換経済領域」です。したがって、財・サービスの生産者がそれを欲しいという消費者に売る場所が必要となります。これを「市場」といい、この市場での交換を通じてお互いが利益を得ることができるような交換経済を市場経済といいます。経済学の課題である資源の効率的配分は、この市場の自由な活動によって自然に達成されていきます。実はこのような市場機能に関する基本原理を学習していくのがミクロ経済学なのです。

次頁に市場を中心としたミクロ経済学の全体構造を図に示します。これから学ぶ個々の経済主体と全体の関係を、常につかんで勉強するようにしてください。

# 第1章 市場の理論

## ミクロ経済学の全体構造



## 市場価格の決定

まず最初は市場全体からみていきます。

ミクロ経済学は希少資源の効率的利用について考える学問です。一部の例外を除けば、資源の効率的利用は市場で自然に達成されます。市場において、財・サービスの価格（経済学ではモノの値段を価格といいます）と取引数量が決定されます。

価格は財・サービスの売り手と買い手のバランスで決まります。買いたいという量が増えれば価格は上がり、売りたいという量が増えれば価格は下がります。

### 1. 供給曲線（例：リンゴを生産している農家）

リンゴの価格が1個100円の場合500個を生産しているとしましょう。

(1) リンゴの価格が1個50円になるとリンゴの生産量はどうなるでしょうか。

(2) リンゴの価格が1個 150 円になるとリンゴの生産量はどうなるでしょうか。  
答えは (1) は「減る」 (2) 「増える」です。

供給曲線

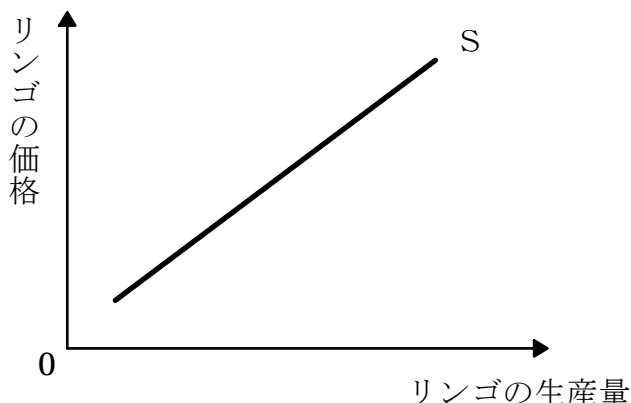


図1

リンゴの価格が高くなるほど農家は生産量を増やします。生産したものを全て売りに出すとすると生産量=供給量となります。

こうして描かれた曲線が**供給曲線**です。(図1)

## 2. 需要曲線 (例：リンゴを八百屋で買う家庭)

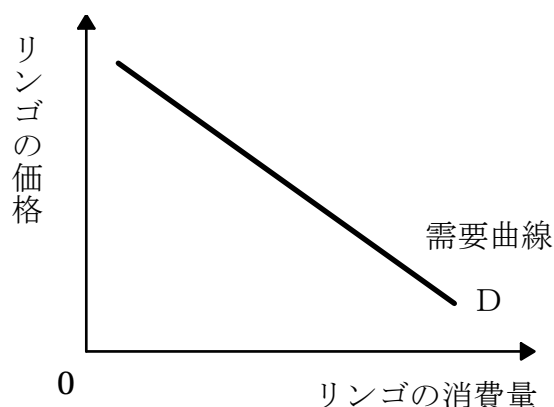
リンゴの価格が1個 100 円の場合、10 個を消費するとしましょう。

(1) リンゴの価格が1個 50 円になるとリンゴの消費量はどうなるでしょうか。

(2) リンゴの価格が1個 150 円になるとリンゴの消費量はどうなるでしょうか。

答えは (1) は「増える」 (2) は「減る」です。リンゴの価格が高くなれば、リンゴの買い入れ量を減らします。なぜなら、他の果物の価格が変わらなければ、相対的に他の果物の方が安くなるからです。

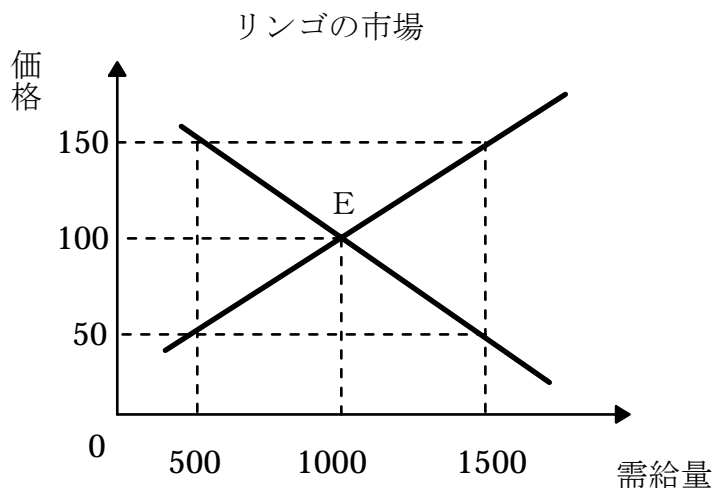
この価格と消費量の関係を図示したものが**需要曲線**です。



※ 需要曲線が**右下がり**という性質は極めて重要です。右下がりの需要曲線は**需要法則**とも呼ばれ、経済学の常識になっています。

### 3. 市場の均衡

現実の市場では売り手と買い手は数多く存在しています。先に見た供給曲線と需要曲線の横軸をよみかえてS曲線を市場における売り手全体の供給曲線とし、D曲線を市場における買い手全体の需要曲線とみます。この市場における価格はS曲線とD曲線の交わる場所に決定します。



(1) リンゴの価格が 150 円の時

供給側は 1500 個が最適であると考え、でも実際に需要されるのは 500 個

↓

1000 個の売れ残り (超過供給)

↓

超過供給が発生すると価格は下落する。

(2) リンゴの価格が 50 円の時

供給側は 500 個が最適であると考え、でも 50 円なら 1500 個の需要がある。

↓

1000 個の不足 (超過需要)

↓

超過需要が発生すると価格は上昇する。

最終的には、需要と価格の一致する水準に価格は近づいていきます。このような水準を**市場均衡**と呼びます。均衡とは、生産者も消費者も同じ価格で同じ量の生産と消費を繰り返す状態です。均衡が成立する点を**均衡点**といい、図ではE点で表しています。各経済主体の事情の変化によって、この均衡点がどのように変化するかがマイクロ経済学の必要な問題になってきます。

次に、需要曲線、供給曲線の具体的な内容を見て、均衡点の変化する場合について考察していきます。

## 需要曲線

### 1. 需要曲線の定義

ある財の価格と需要量の関係をあらわしたもの。

※一つの財の価格とその需要量について見ていることに注意してください。

### 2. 需要曲線の性質

右下がり

※これは経済学では非常に重要な性質ですので忘れないようにしてください。

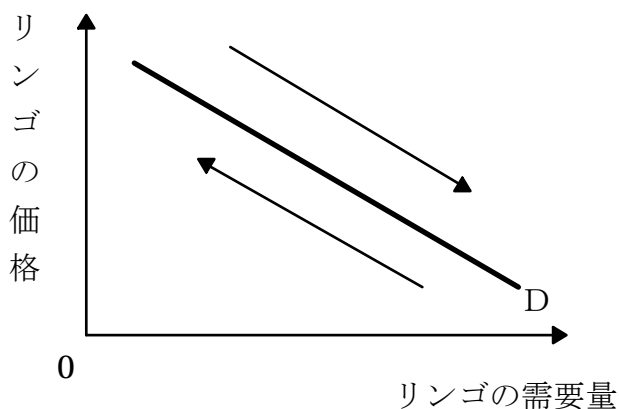
### 3. 需要曲線を定める要因 [注：（ ）内はAさんがリンゴを買うときの例]

- (1) その財自身の価格 (リンゴの価格)
- (2) その財と関連する財の価格 (みかんの価格)
- (3) 消費者の所得 (Aさんの月給)
- (4) 消費者の嗜好 (Aさんの好み)

### 4. 需要量の変化

需要曲線を定める要因のうち「(1)その財自身の価格」の変化は、**需要量の変化**をもたらします。価格が下がれば需要量は増加するという需要法則がここでは成り立ちます。

図でいうと**需要曲線上の変化**になります。



## 5. 需要の変化（需要曲線がシフトするかどうか）

需要曲線を決める要因のうち、(2)～(4)の変化は、「需要」の変化をもたらします。需要の変化は需要曲線上の移動である需要量の変化とは厳密に区別され、「**需要曲線のシフト**」（需要曲線の移動のこと）と考えます。

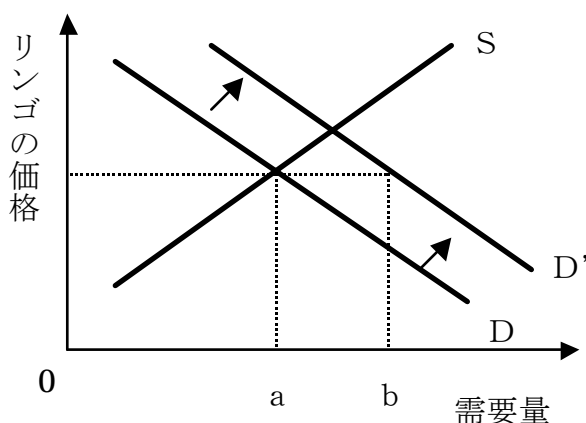
### (1) 関連する財の価格の変化

#### a. 代替財の場合

代替財とは、対象となっている二つの財が、ほぼ同じような満足を与えてくれる財です。簡単にいえば間に合わせのできる財どうしのことをいいます。例えば鉛筆とシャープペンシルをみると、シャープペンシルの価格が上昇した場合、鉛筆で間に合わせようとします。その結果、価格の上昇したシャープペンシルの需要量は減り、鉛筆の需要量は増えます。

このような二つの財を互いに代替関係にあるといいます。上の例で、みかんの価格が上昇すれば、果物が食べたい人はみかんの購入量をへらし、その分リンゴの購入量を増やすでしょう。

このように、他の財（みかん）の価格が上昇したとき、ある財（リンゴ）の価格が変化しなくても需要が増加することは需要曲線のシフト（右上方シフト）で説明できます。



a : みかんの価格が上がる前のリンゴの需要量

b : みかんの価格が上がった後のリンゴの需要量

(代替財の例)

バターとマーガリン、万年筆とボールペン、牛肉と豚肉、コーヒーと紅茶

(結論)

代替財（例：万年筆）の価格が上昇すれば、その財（例：ボールペン）の需要は増加し、需要曲線は右上方へシフトする。

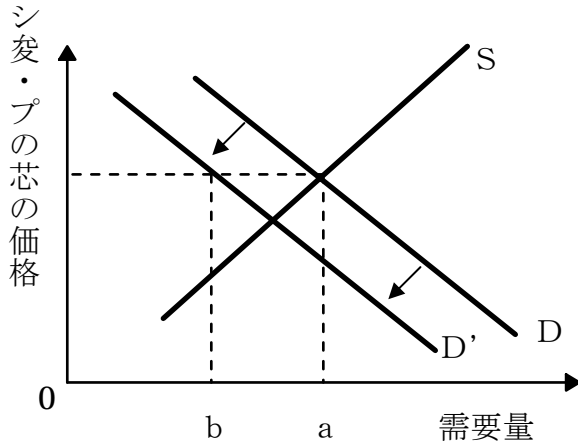


## b. 補完財の場合

**補完財**とは、2財の間に一方の需要が増加すると他方の需要も増加し、一方の需要が減少すると他方の需要も減少するという関係がある財をいいます。例えば、シャープペンシルの価格が上がり、その需要が減れば、シャープペンシルの芯の需要も減るでしょう。このような場合、2財は互いに補完関係にあるといえます。

このような財の需要の変化は需要曲線のシフト（左下方シフト）で説明できます。

シャープの芯の需要曲線



a : シャープの価格が上がる前の芯の需要量

b : シャープの価格が上がった後の芯の需要量

### (補完財の例)

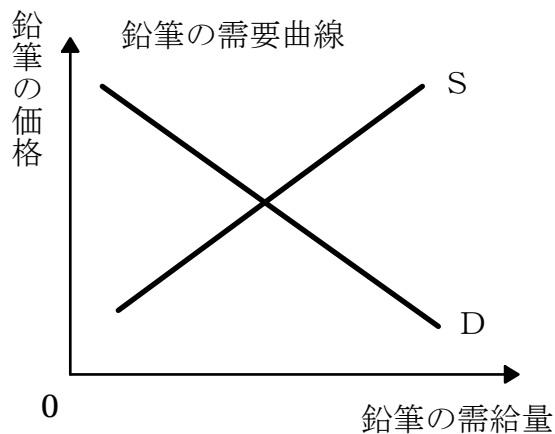
パンとバター、万年筆とインク、コーヒーと砂糖、カメラとフィルム、自動車とガソリン

### (結論)

補完財（例：万年筆）の価格が上昇すれば、その財（例：インク）の需要は減少し、需要曲線は左方向へシフトする。

### C. 独立財の場合

**独立財**とは、他の財が価格が変化しても、需要量が全く影響を受けない財をいいます。例えば牛肉と鉛筆の関係です。牛肉の価格が上がって需要が減っても、鉛筆の需要は変化しないでしょう。このような関係にある2財は互いに独立しているといえます。この場合には**需要曲線はシフトしません**。



牛肉の価格が上昇しても鉛筆の需要曲線に変化はない。

(独立財の例)

航空券と花の種、コーヒーとシャープペンシル、カメラとしいたけ

(結論)

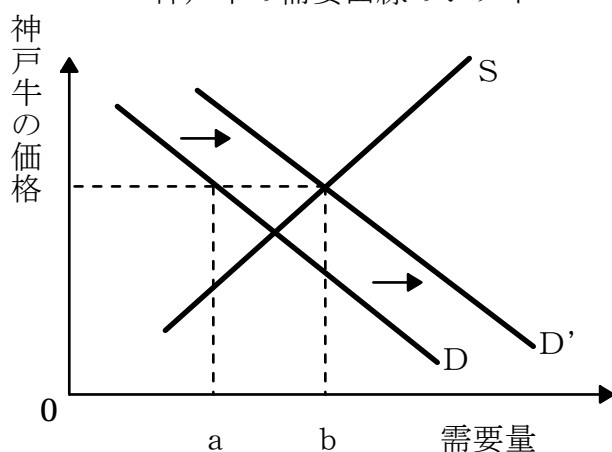
独立財（例：コーヒー）の価格が上昇しても、その財（例：シャープペンシル）の価格は変化せず、需要曲線もシフトしない。

## (2) 所得の変化

### a. 上級財

上級財とは買い手の所得が上昇すれば、需要が増えるような財をいいます。例えば、神戸牛などは他の肉に比べて高いので、所得が低いときの需要は多くありません。しかし、所得が上昇すれば、前よりも神戸牛を食べる機会が増えます。このような需要の変化は需要曲線のシフトで説明できます。

神戸牛の需要曲線のシフト



(上級財の例)

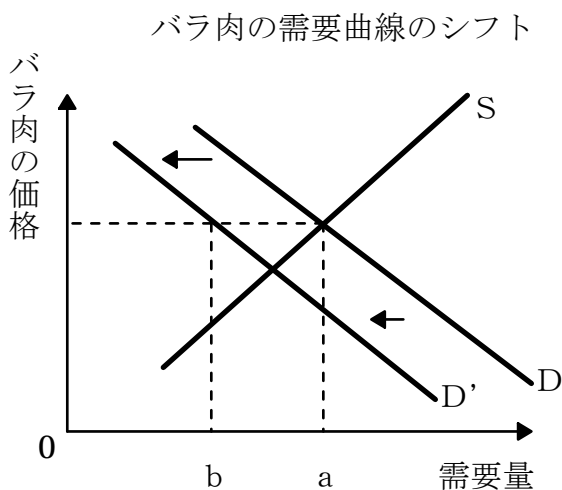
高級乗用車、パソコン、寿司のウニ巻き

(結論)

上級財の場合、所得の増加は需要曲線を右方向にシフトさせる。

## b. 下級財

**下級財**とは、所得が増えるとかえって需要が減少してしまう財をいいます。例えば、バラ肉などは他の肉に比べて安いので、所得が低いときの需要は多いのですが、所得が上昇すれば、バラ肉よりも美味しい肉を食べたくなります。結果としてバラ肉の需要は減ります。このような需要の変化は需要曲線のシフトで説明できます。



(下級財の例)

米に対する玄米、パンに対するジャガイモ（主食として）

(結論)

下級財の場合には、所得が増加すると需要曲線を左方向にシフトさせる。

## (3) 嗜好の変化

消費者の好みが変わった場合、例えば消費者が減塩嗜好に変わった場合、減塩の梅干し、減塩の醤油の価格が変わらなくても、その需要は増加します。この変化は需要曲線の右方向の変化で示されます。

## (4) その他の変化

人口の変化や将来価格の期待によっても需要曲線は変化していきます。